

3月30日(月)

私の目を開いて下さい

聖書朗読 詩篇 119:17~32

私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえのうちにある奇しいことに目を留めるようにしてください。 詩篇 119:18

本日の聖書朗読箇所を読むと、とある兄弟のことを思い出します。彼はクリスチャンになる前に数年もの間、毎週月曜夜に行われていたノンクリスチャンのためのプログラムに参加していました。

そのプログラムは礼拝と短いバイブルスタディ、そして祈りの時を持ち、最後に食事を共にするものでした。この男性は常にプログラムに参加していたので、聖書について勉強したいのか尋ねてみました。当時の彼の回答は特に興味は無いとのことでした。

約4年間、毎週欠かさずにプログラムに参加し、ついに彼は自ら聖書について学びたいと思いました。その結果、彼の「目は開かれ」、神様を信じ、バプテスマへと導かれました。彼に聖書を教えバプテスマした教会員は、その後彼が亡くなるまでの5年間、教会ではいつでも彼の隣に座ってくれました。彼は、社会で特別目立つようなタイプの人ではありませんでしたが、彼の人生はイエス様によって大きく変えられたのです。そして変えられた彼の人生は、他の教会員たちに対しても良い影響を与えています。このように、主にある交わりや友情は、私たちクリスチャンを互いに励まし合い、育てます。現在、聖書を勉強している方々の霊的な目が開かれ、イエス様と出会えるよう、祈り続けましょう。そして私たちと共に信仰の旅路を歩み出すことが出来るよう、祈りましょう。

讃美歌 461

祈り 神様、あなたのしもべとなれるようお導き下さい。神様が私たちのために用意して下さっている素晴らしい恵みを感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

グレン・ボイド

アーカンソー州サーシー

今日のカ

2020年3月30日~4月5日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月31日(火)

私を生かす御言葉

聖書朗読 詩篇 119:25~40

私のたましいは、ちりに打ち伏しています。あなたのみことばのとおりに私を生かして下さい。
詩篇 119:25

人生の節目に差し掛かった時というのは、私たちが特に御言葉を慕い求める時ではないでしょうか。子どもが産まれた時、結婚する時、病に伏した時、また亡くなった人を見送った時などです。このような時、特に本日の聖書朗読箇所である詩篇119編は、私たちの心に響くのではないのでしょうか。

詩篇119篇は、詩篇の中で一番長い章であるだけでなく、古代の芸術作品と言っても良いくらい洗練された構造になっています。簡単に申しますと、この119篇は8節ごとに1段落を形成しており、全部で22段落あるのですが、それぞれの段落は、ヘブル語のアルファベット(22文字)と結びつけて書かれています。例えば第1段落(1節~8節)では、各節がヘブル語のアルファベットの最初の文字で書き始められています。第2段落(8節~16節)では、各節がヘブル語のアルファベットの第2番目の文字で書き始められ、同様のことを、ヘブル語のアルファベットの22番目の文字つまり最後の文字まで続けられています。要するに、いろは歌形式の素晴らしい詩篇となっているのです。ですから、詩篇119篇は、ヘブル語のアルファベット全てを駆使して神様への賛美、神様の掟、聖なる教訓、知恵と真理を詠っているとも言えるのです。

詩篇119篇が、ヘブル語のアルファベットを全てを駆使して表現されているように、神様の御言葉の恵みは、とても深く広いのです。ですから、私たちの人生がどのような状況にあらうとも、私たちに必要な霊的な糧を、みことばを通して頂くことが出来ます。若い時、老いた時、人生の始めから終わりまで、いかなる状況にあらうとも、御言葉は、私たちを霊的に支え養うことが出来るのです。

讚美歌 187

祈り 聖なる神様、御言葉を私たちがしっかりと受け止めることが出来ますように助けて下さい。私たちが、闇ではなく光のうちを歩むことが出来るよう、御言葉を通して導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ケン・ダーハム
テネシー州ナッシュビル

4月1日(水)

喜び賛美する

聖書朗読 詩編 148

だれが知恵をもって雨雲を数えることができるか。だれが天のかめを傾けることができるか。
ヨブ 38:37

私は、詩篇148篇に書かれているような賛美の詩がピンとこない時があります。神様が148篇で言われているような賛美を受けるに値する方だと言うことは、もちろん分かっているつもりです。ですが、正直なところ、私の心は少し冷めてしまっていることが多いのです。しかし、時に神様は、私の心に「賛美したい!」という心の火を燃やして下さる時があります。私が「心の底から神様を賛美したい!」と感じる時、私は、C. S. ルイスの次の言葉を思い起こします。

確かに詩篇の作者たちは、人々に神を賛美するよう促している。しかし、そもそも詩篇の作者たちは、人々に賛美を促すために詩篇を書いたというよりは、作者の心から溢れる感動を素直に表現しているのである。私は思う——人間は、感動するとそれを言い表したいと欲するものだが、感動を言い表すことによって、その感動はさらに豊かな体験へと深められるのである。(C. S. ルイス)

私は雨が大好きです。特に静かな雨が好きで、美しいと思いますし、魂が洗い流される気がします。しかし、その喜びを自分で感じるだけでなく、誰かに伝えた時に、完全な喜びとなるのです。それがC.S.ルイスが言っていることだと思うのです。

海水は水蒸気として蒸発しています。そして蒸発した水分はいつか雨となって降り注ぎます。こうした自然の仕組みについて少し考えてみるだけでも、私たちは何か感じことはありませんか。「神様が造られた自然は、本当に良く出来ているなあ!」と感じるなら、その思いは、賛美なのです。私が、降り注ぐ雨を見て心が洗われるように感じ、雨模様にしさを感じたとしたら、それも賛美に繋がります。つまり私は、神様の御業に感動したからです。神の創造の御業に対する感動と感謝は、賛美なのです。

讚美歌 II編161

祈り お父様、あなたが造られたものを楽しむだけでなく、そのことについて人に伝えられるようにお助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

チャック・ブライアント
テキサス州ラボック

4月2日 (木)

最後まで

聖書朗読 箴言 3 : 21~26

こうして、あなたは安らかに自分の道を歩み、あなたの足はつまずかない。

箴言 3 : 23

この話を聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが。小さな男の子が「大きくなったら生き物（訳注：英語では「クリーチャー」）になりたい」と言い、それを聞いた人は、どうしてだろうと不思議に思いました。さらに彼の話を聞いていると「教会で話す人のことだよ、知っているでしょ？」と言いました（訳注：「教会で話す人」とは説教者のこと。説教者は英語では「プリーチャー」。男の子は、「ク」と「プ」を間違えて発音していた、ということです）。このように、私たちが誰かに何かを話す際、話の最後まで聞いてもらわないと、話の意味を理解してもらえない場合があります（男の子の場合は、発音の間違いが原因でしたが、正しく発音したとしても、誰かに何かを説明して伝えるというのは、必ずしも簡単ではありません）。同じように、クリスチャンがノンクリスチャンに対して、キリスト教信仰についてお話しする際にも、なかなか理解してもらえないという場合があります。

残念なことに、私には化学療法の副作用で神経障害があります。ですから、時にバランスを取れずよろけそうになってしまう時があり、階段ではいつも手すりを探します。私は、常に手すりをつかんでよろけないようにする必要があります。このことは、人生において神様が差し伸べて下さる御手にしっかりとつかまり、信仰の歩みを続けていくことと似ているような気がします。どんな時でも神様に頼ることが出来るのは、何いう恵みでしょうか。

神様のご計画は、あまりに壮大で素晴らしく、それゆえ私たちの理解を越えている場合があります。試練の中で神様の恵みを見出す時もあります。このようなクリスチャンの信仰生活の素晴らしさについて、ノンクリスチャンの方々に理解して頂くのは確かに簡単ではないと思います。ノンクリスチャンの方々が、私たちが語る信仰についてのメッセージを（一部だけ聞いて無意味だと考えるのではなく）忍耐強く耳を傾け続けて下さいますよう、祈りたいものです。

讃美歌 270

祈り 親愛なる神様、私はあなたに信頼を置きます。信仰の旅路のための霊的な足は、あなたによって強められ、私はよろめくことはありません。あなたに拠り頼む歩みをノンクリスチャンの方々に証（あかし）しつつ、この地上人生を全うできますよう、私を助け導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スーザン K・ギボニー
カリフォルニア州マリブ

4月3日 (金)

心の大切さ

聖書朗読 箴言 4 : 23~27

力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

箴言 4 : 23

私たちの思いや行動の背後にある、私たちが真に突き動かしているものについて考えてみましょう。あなたの思いや行動は、何によって突き動かされていますか？ あるいは、私たちは何によって突き動かされるべきなのでしょう。箴言の著者であるソロモン王は、心が人の意思の基礎だと言いました。私たちは、自分の心とよく向き合い、心を大切に養っていくことが必要なのではないのでしょうか。そうすることで、私たちは自分たちの行動やその結果もたらされることを、少しでも良いものにしていくことが出来るのではないのでしょうか。

では心を養っていく上で、大切なことは何でしょうか。それを考えるためには「私たちの心に影響を与えるもの」について考えることが必要です。ソロモンは、心を神に向けることが大切だと言っています。心を神に向けることは、私たちの感情や考えに良い影響を与え、その結果、自分たちの行動を良い方向へと導きます。このように、私たちの感情、思いや考えを形成する心を養っていくことはとても大切です。

心を養うために、心を神に向けることが大切なのですが、そのためには、私たちの目が何をみつめているのか、私たちの口が何を語っているのか、点検する必要もあります。また、信仰の旅路を歩み進める（霊的な）足が正しい方向に向かっているか点検する必要もあります。「右にも左にもそれではならない。あなたの足を悪から遠ざけよ」（27節）。私たちは、信仰の旅路において、誤った場所、近づくべきではない場所に迷い込んでしまう危険性があるからです。

私の頑な心を憐れんで下さいオリーブ油とぶどう酒で私の心を癒して下さい

愛なる神よ、あなたは注ぎの油・御霊なる神であられます

ぶどう酒のように赤いキリストの血潮が、私をきよめ造り変えて下さい

-キース・グリーン

讃美歌 333

祈り 親愛なるお父様、あなたの子供としてふさわしい歩みが出来ますよう、お導き下さい。そして私たちの心の中心にあなたをお迎えできますよう、私たちの心を整えさせてください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ノーマ・プリヴィット
カリフォルニア州サウザントオークス

4月4日(土)

自己中心的

聖書朗読 箴言 29:1, 8, 22~23

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

マタイ 23:12

(悪い意味での)プライドは、「自己を過大評価してしまう意識」だと言えます。プライドが高すぎると、自分自身を過大評価することに繋がり、それはその人の自己中心的な考えだと言えます、プライドは、自己中心的な考えを助長します。

人の罪の根本的な原因は、私たちの自己中心的態度にあると言えます。自己中心的態度——これは確実に、私の欠点リストの上位にある項目です。時々、家族とちょっとした言い争いをしてしまう時がありますが、冷静に考えてみると、その原因は大抵私の自己中心的態度にあることを認めざるを得ません。私のプライド高い、優位に立ったような態度がいけないのです。自分が間違えていることを認めたくない気持ちは、人を傷つける言動へと導きます。そして、プライド高くいる自分を振り返ると、そこには(他者を締め出してしまう)孤独な私がいるようにも感じます。

多くの人々に愛されている聖書箇所とも言えるIコリント13章には、「愛は高慢にならない」とあります。これは、自分を必要以上に卑下するというのではなく、他者に対する配慮や思いやりの気持ちを進んで持つということです。そして、「自分の望むこと」よりも「他者の必要」をより大切にすることです。私たちが、主にある兄弟姉妹の交わりの中で謙虚に生きる時、それは私たちにとって霊的温もりを経験するような生き方となることでしょう。

聖歌 541

祈り 天なるお父様、私たちが自己中心的生き方に陥らないよう、助けて下さい。どうぞ私たちを赦し、あなたに霊的に近づけるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ノーマ・プリヴィット
カリフォルニア州サウザントオークス

4月5日(日)

満足感

聖書朗読 伝道者の書 5:18~20

しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

Iテモテ 6:6

(伝道者の書の著者だと考えられている)ソロモン王は、聡明な人物で、「満足すること」についてとても賢くかつ簡潔に書き残しています。「満足すること」とは、自分に与えられた人生を素直に受け入れ、神様から与えられた賜物に喜びを見出していくことです。また、「満足すること」とは、神様から頂いている恵みに感謝し、頂いている恵みを神様のご栄光のために用いていくことです。ソロモン王よりずっと後の時代になって、使徒パウロは、貧しさの中にいる道も豊かさの中にいる道も知っている、と書いています。パウロもソロモン王同様に、どのような状況でも「満足すること」の秘訣を知っていたのです。

「満足感」自体も、神様から与えられた恵みです。人生を庭に例えるなら、満足感とは、平和、愛、幸せという名の花々を育てる「良い土」のようなもので、霊的に豊かな人生のためには必要不可欠です。私たちが、自分自身に自信を無くし、今後の歩みについて方向性を見失ったり不安を感じたりする時は、ピリピ4:13の聖句を思い起こしましょう。「私を強くしてください方によって、私はどんなことでもできるのです」。神様はいかなる時も私たちと共に居て下さいます。そして全てを御手にお委ねする時、神様から与えられる満足感が私たちの心を潤します。それは何と素晴らしい経験でしょうか！

讃美歌 291

祈り 神様、私を愛して下さいありがとうございます。イエス様を通して、必要なものを与えて下さり、感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジーン・ガン
テキサス州ネダーランド